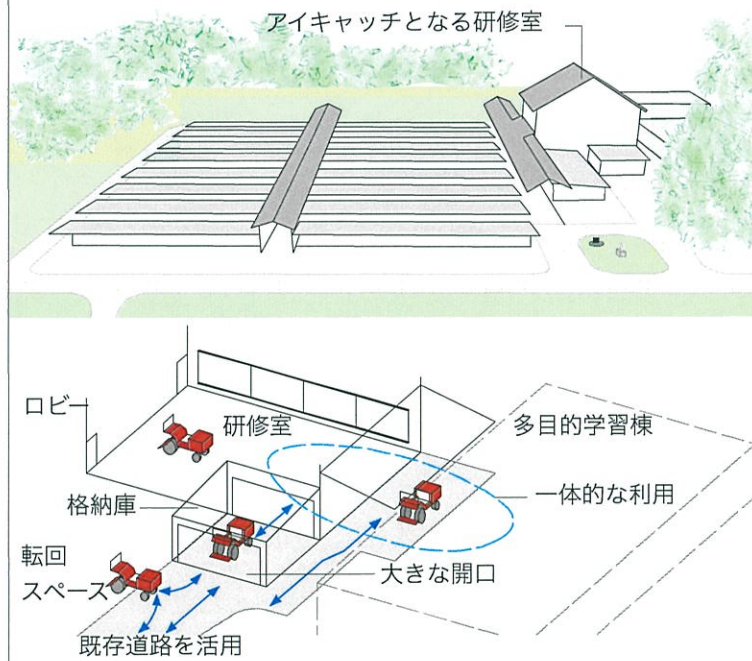


●街のような人材育成センター

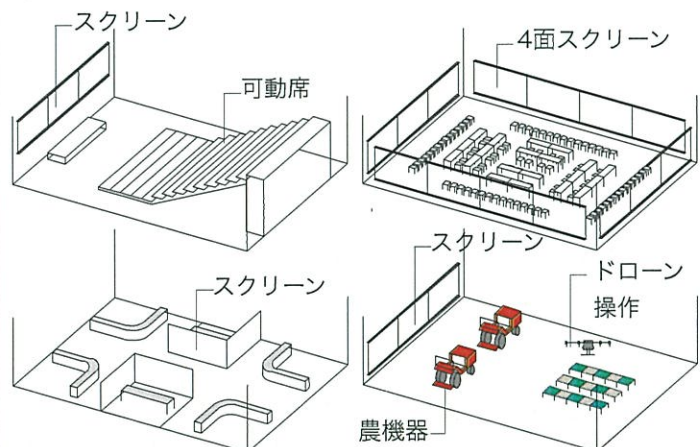
週のうち5日、1つの建物にいるというよりも、小さな街を散策しながら過ごしているようだと感じることが重要と考えます。街のような人材育成センターを提案します。

(1) 福島県農業の持続的発展に向けた先端技術(スマート農業)を学べる施設の在り方に関する提案

研修室はこのセンターのシンボルとなります。低い家並みの中に建つ背の高い研修室はアイキャッチとなり、人々をセンターに誘います。機械・機器の搬入には、既存道路を有効活用します。格納庫周りには余裕のある転回スペースを設けます。研修室との間には大きな開口を設け、スムーズな移動を行えるようにします。



大人数での利用、分割しての利用など様々な視聴環境が想定されますが、可動席の設置やスクリーンによる仕切などで対応します。スクリーンは一面だけでなく、部屋中央部にも配置したり、360度投影できるようにします。音響面でも臨場感の創出がなされるような計画とします。高い天井を活かして、ドローン操作を行えます。



(2) 良好な教育・研修環境の中で学生や研修生が快適に過ごせる施設の在り方に関する提案

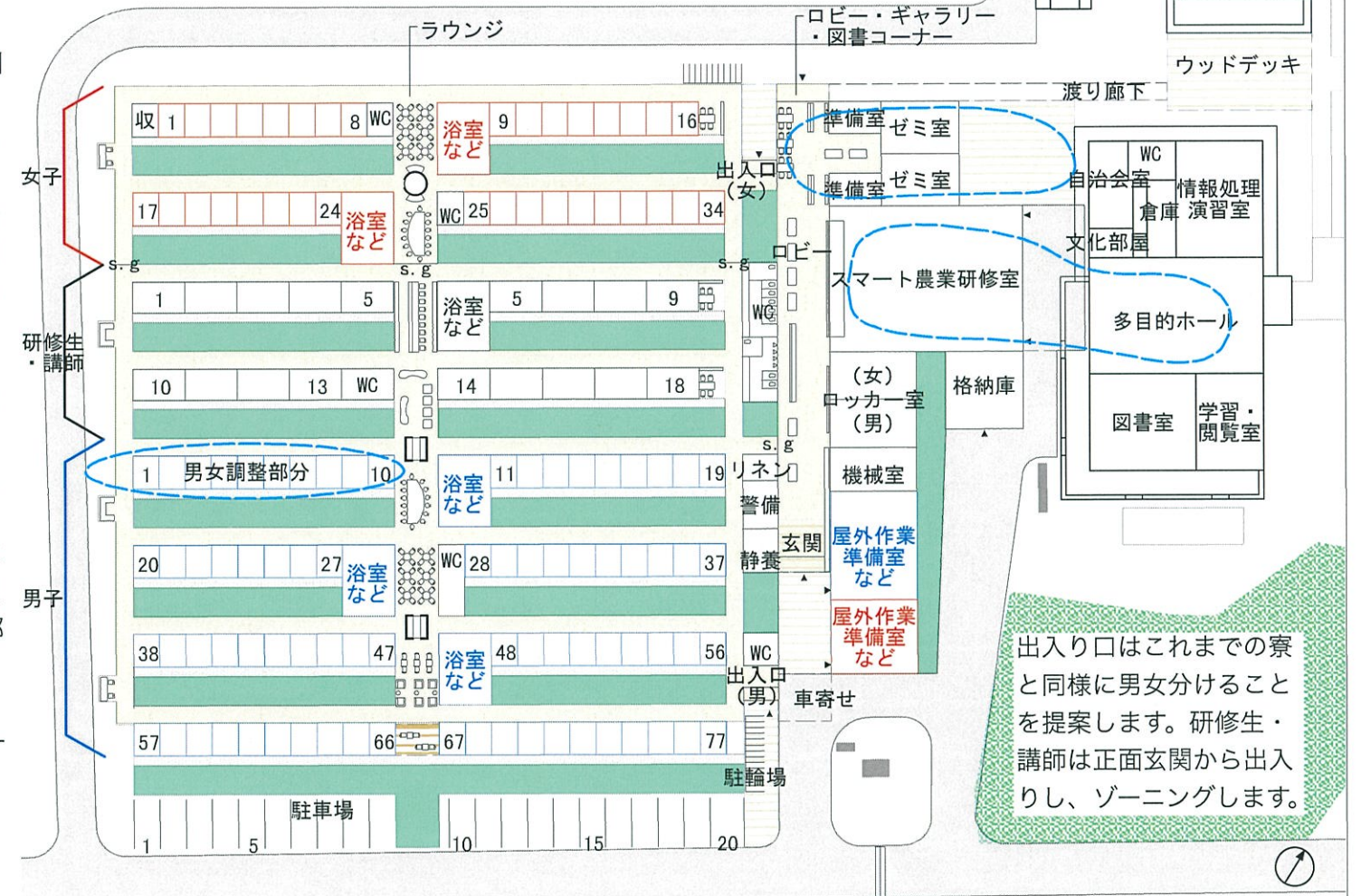
明快なゾーニングを行います。東側(既存棟側)に教育・研修エリア、西側に生活・交流エリアを配し、その間に管理エリアをおきます。それによって研修室と住環境とを緩やかに区切り、管理のしやすさを目指します。既存多目的学習棟とスマート農業研修室とは一体的に利用できるようにします。既存の花壇周りの整備を行い、既存棟との間に屋根をかけることで、日常的に行き来したり、多様な授業形態を実現できることと考えます。生活・交流エリアでは、まず寮と通学生のゾーニングを行います。正面玄関近くに屋外作業準備室を設け、ほ場に通りやすくするとともに、ロビーで、寮生や講師との交流を図れることを考えています。また、男女の動線を分けるセーフティゲートを効率よく配置し、お互いが気兼ねなく過ごせる環境づくりをいたします。男女の間に研修生、講師ゾーンを入れ、距離をとります。間に配することで、女性研修生、女性講師の浴室などの利用もしやすくなります。外部周りでは、石碑を眺めながらアプローチします。車寄せ、格納庫への道路など余裕のある幅員とします。正門から近い位置に駐車・駐輪場を配し、センターや本部へスムーズにアクセスできるようにします。既存道路から直接駐車するのでハンプを設け安全性を確保します。また、北側の新設駐車場へのアプローチと食堂へのサービス通路として、西側に道路を設置します。



(3) 学生等の自らの学びと農業者、指導者等と多様な交流を促す施設の在り方に関する提案

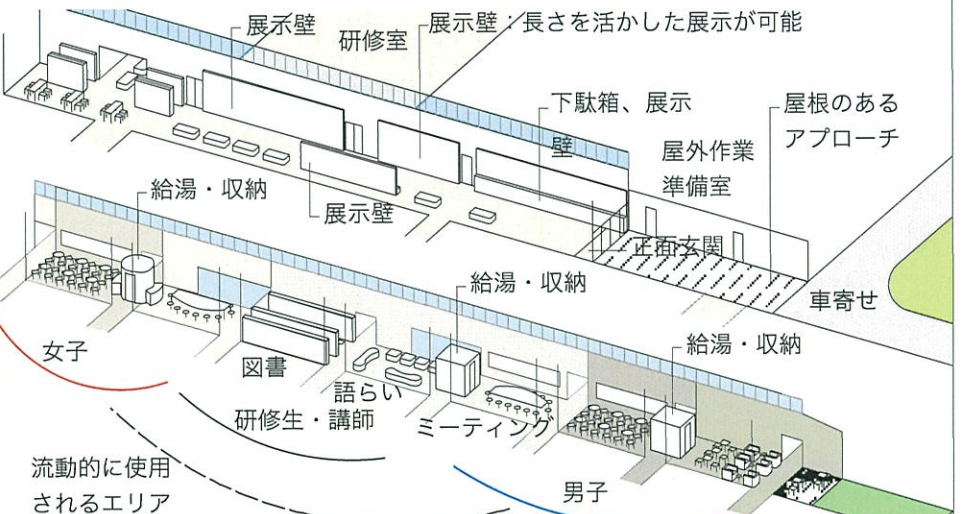
個室に閉じこもり過ぎない暮らしを促します。通り性を創出します。大きな通りを2つ設け明快な動線計画を実現します。1つは正面玄関から続くロビー・ギャラリー・図書コーナーで、教育・研修エリアに接します。一般利用者、農業法人などの利用を促します。もう1つは寮内のラウンジで、テーブル、本棚、展示壁などを分散配置します。カフェのような空間、ソファコーナー、図書館の閲覧室など性格の異なる空間をバランス良く配置します。

回遊性を創出します。いろいろなところで多様な交流が生まれることを目指します。場所性を創出します。内装では違う木や家具を使用し、居場所がわかりやすい計画とし、水田、野菜、花き、果樹、畜産、流通・販売など各科のコーナーを設置します。



出入口はこれまでの寮と同様に男女分けることを提案します。研修生・講師は正面玄関から入りし、ゾーニングします。

主動線であるロビーとラウンジの2つの通りは、おおらかなアーケードのようなスペースです。正面玄関から図書コーナーへ向かうにつれて、静かな環境となります。卒業生の情報なども展示可能です。ラウンジでは、男女各自の場所を規定し、間の研修生・講師のゾーンで勉強会や発表会など交流を伴う活動が行われることを考えています。壁にはホワイトボードを設置するなど、壁が広がる設えとします。



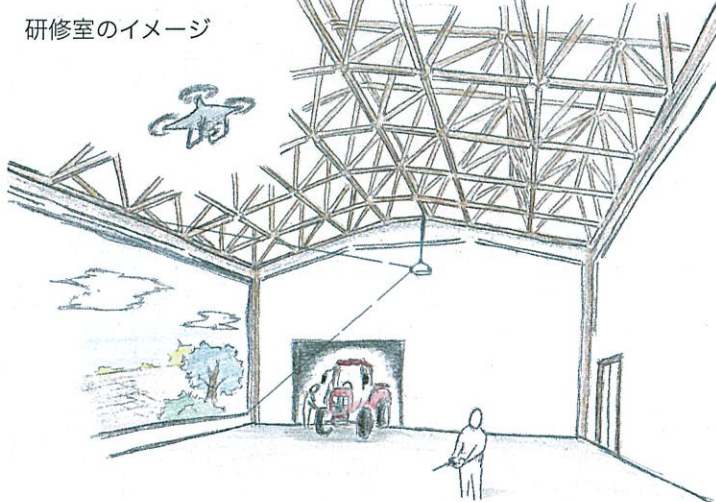
(4) 伝統と革新、地域に配慮した意匠、県産材の積極的な活用とエネルギー性能が高く持続可能性に優れた施設の在り方に関する提案 (5) その他本施設の計画において特に重要と考える提案

このセンターは多様な屋根が作り出す小さな街のような建築です。

切妻、片流れといった、街の要素である馴染み深い形状を用います。寮は住居の延長ですので、住宅のスケール感とします。

一方で、研修室と2つの通りは大きな空間です。大きな空間を大断面の木材による構造とすることは住宅のスケール感と乖離すると判断しました。ここでは小断面材材を用いて大空間を作ることを選択します。その構造が外に見えるようにガラスを用い、奥行きのある外観を作りたいと考えます。

屋根の素材は、耐用度、メンテナンス、馴染み深さ、コストなどから鋼板葺きを考えています。



木造建築では雨をスムーズに流れ落とすことが重要となります。谷を作らない設計で雨仕舞いの処理を的確に行い、長寿命の建築を目指します。

また雨水は、トイレ洗浄水、中庭の散水など効果的な再利用を図ります。

多様な屋根形状は、居室の採光、換気にも寄与し室環境を高めます。

ロビーやラウンジなどでは高窓を設けます。上部からの柔らかい自然採光をもたらす、換気を促進します。近年のコロナ対策にも効果的です。換気がなされることにより、中間期は冷暖房がいらぬ利用者に優しい環境を提供したいと思ひます。

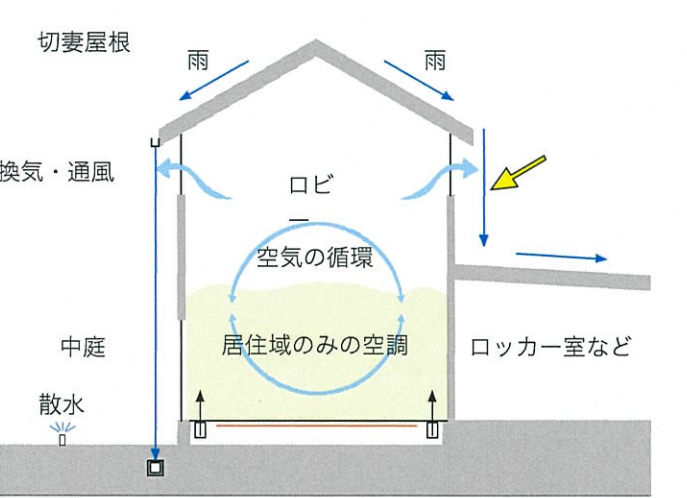
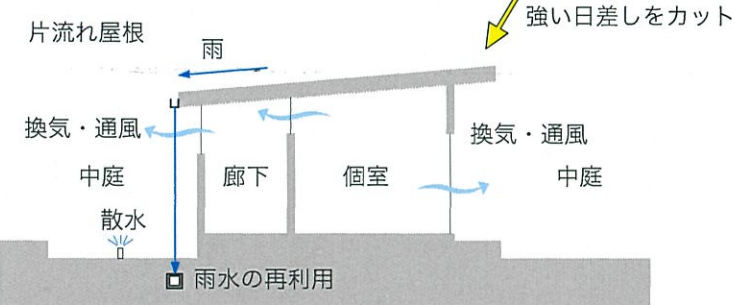
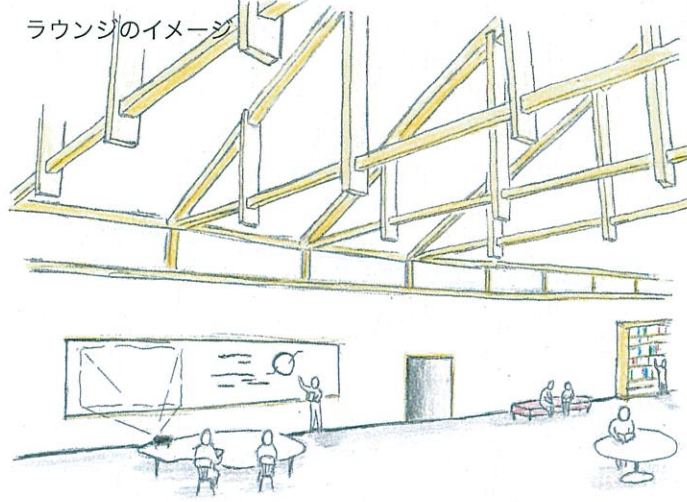
空調設備は、ヒートポンプのエアコンを考えています。寮の個室はルームエアコン、研修室、ロビー、ラウンジなどの大きな空間では、床からの吹き出しとし、利用する場所を快適にする計画とします。

木造であることをはじめとして、脱炭素、低炭素社会に貢献する施設を目指します。

小断面材材による構造形式は、システムティックでありながらも画一的な印象を与えない自由度の高い形式を用いようと考えています。

また、ジョイント部の処理、スチールとのハイブリッドなど、繊細な構造で大きな空間を生み出します。

小断面材材による構造のイメージ



平日の全てをここで過ごすということを考えた時、一番重要なのは室環境に差が出ないようにすることと考えます。ここでは寮の全室が南面することを選びました。

中廊下型、中庭囲み型などを検討しました。中廊下型は動線が短くなったりと効率は良いのですが、どうしても東向き、西向きの部屋を作ることになります。中庭囲み型も部屋の環境が異なる上に居室同士が近くなるのが懸念されました。

農業においても南面は重要であると同様に、居室もやはり南面が望ましいのです。

北側に片廊下を配しますが、プライバシーを確保するよう、アイレベルでは壁か細かいルーバーを設置し視線をカットします。高い位置に窓を設け、明るさと風通しを確保します。

片廊下型は、廊下が長くなりますので、ラウンジのある通りや、廊下のところどころにアルコーブを設け、積極的に長さを楽しめる計画とします。

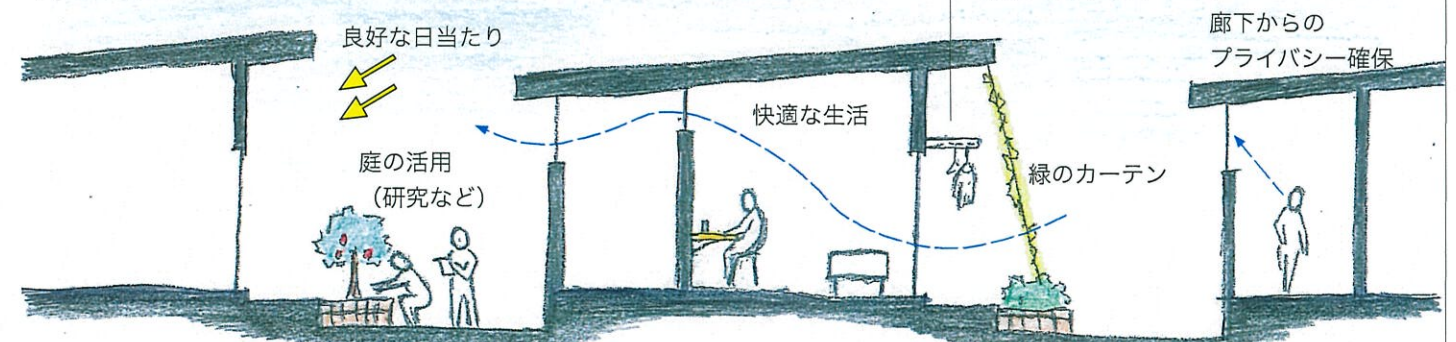
細長い庭がいくつかできますので、学生の積極的な活用を促したいと思ひます。個人のちょっとした研究に使える庭（花壇、畑）としたり、緑のカーテンを設置するなど、多様な庭が出来上がることを目指します。

設えとして、樹木のある庭、花のある庭、ウッドデッキの庭、石の庭、水のある庭なども考えられます。これらは現在の生徒とのワークショップで決められればと思ひています。卒業後も訪れる契機となるのではないかと思ひます。

個室の前には洗濯物を干せるスペースを確保します。

withコロナの生活様式は建築においても重要な検討項目です。設計にも感染症対策を取り入れ、職員が除菌作業に追われることのないようにします。具体的には、各出入口に手洗いを設けたり、水栓、照明の点灯は非接触のセンサーとしたり、除菌UV照射器や空気清浄機能付き循環ファンを設置するなど、機器設備の適材配置を行います。

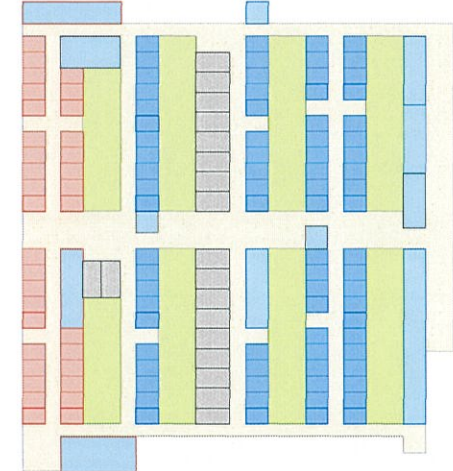
個室、庭、廊下のイメージ



全体計画の中においても馴染む配置計画です。

2つの検討案です。

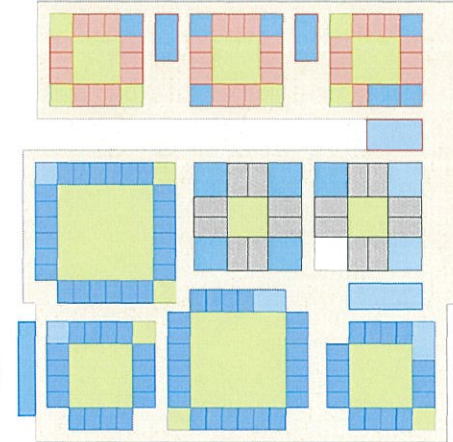
●中廊下型



それぞれ良い点があげられますが、ここでは短所の方を懸念材料とし、片廊下型を採用しました。

- ・長所 動線が短い。部屋配置の効率が良い。

●中庭囲み型



- ・長所 ユニットごとのまとまりが出る。
- ・短所（共通） 個室の環境に差が出る。廊下、庭を挟んで対面するのでプライバシーに懸念が生じる。